



福島ロータリークラブ会報

【事務所】福島市栄町 5-1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日 12:30
 【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011
 【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com



<http://www.f-rotary.com/>

本日のプログラム **新会員スピーチ** 農林中央金庫福島支店長 **船本 勝** 会員

会長あいさつ

第 23 回会長挨拶 古俣 猛 会長



皆さんこんにちは。先週の例会は IM に振替となっておりますので本日は久しぶりに辰巳屋での例会となりました。皆様いかがお過ごしであったでしょうか…。さて 12 日のインターシティミーティングには大勢の参加を頂きまして誠にありがとうございました。

当日は「RI 第 2530 地区を考える」という大きなテーマに沿って KJ 法による意見集約を行い、様々な意見や提案などが発表されました。当クラブの発表者は相良元章次年度幹事でありましたが、大変素晴らしい発言ぶりでありました。全体的には地区そのものがよくわからないという意見も多くあったようです。どうしても会長幹事もしくは地区の委員会への出向などの経験がないとわかりにくいのかもかもしれません。この辺がいかにか地区とクラブの関係が日頃より緊密なつながりがない表れなのだと私は感じた次第であります。後日詳しい報告書が届きますので出来れば機会をつくって詳しくご紹介申し上げたいと思います。

また、18 日(土)には福島学院大学駅前キャンパスにおいて三者合同新世代会議が開催されました。当クラブ菅野晴隆青少年奉仕委員会委員長をはじめ委員の皆様、そして河田パスト会長にも参加いただき賑やかに開催をされました。テーマとしては「人類に奉仕するロータリー」いわゆる会長テーマを基に若者の考える奉仕について意見交換をいたしました。若者の皆さんはそれぞれ奉仕についての考え方が多岐にわたり、個人個人の奉仕の理想を持っているのだと、感心をいたしました。

続いて先日行われた第 6 回目の会長幹事会についての報告もさせていただきます。まず福島 21 クラブからのご案内で「みんなで繋ごう歌まつり」であります。4 月 23 日(日) 10:00 よりこむこむ「わいわいホール」で開催されます。歌を通して、心のケア、一人ひとりの心が元気になるように、という思いで開催されます。

例会次第

開会点鐘 古俣 猛 会長

ロータリーソング

「福島ロータリークラブの歌」

ソングリーダー 岩山知弘 会員

「四つのテスト」唱和 佐藤良智 会員

お客様並びに来訪ロータリアン紹介

●新会員入会式

矢野武臣 会員

NOK(株)福島事業場 事業部長

…紹介/日比野恒夫 会員

●お客様 福島カラー印刷

阿曾健太郎 様

ポール・ハリス・ソサエティの伝達

会長あいさつ 古俣 猛 会長

食事

幹事報告 菅野裕一 幹事

各委員会報告

●プログラム・ニコニコBOX小委員会

プログラム担当 氏川守義 小委員長

3月プログラムご案内

ニコニコBOX担当 黒崎浩一 委員

◎本日のプログラム

閉会点鐘 古俣 猛 会長



さらに福島南クラブからは「日野皓正復興ライブ」が開催されます。3月26日(日) 17:00 より福島市公会堂においてライブが行われます。このライブにより、若い世代の心に灯をともし、復興の一助となるようにとの思いのようであります。

当クラブにおいても、台湾における最終打ち合わせとして18日から21日にかけて後藤実行委員長をはじめ実行委員会メンバーがわざわざ台湾まで出向いただき、確認をしていただきました。いよいよ「日台友好親善コンサート」についても大詰めとなりました。今後は全ての会員の皆様のご協力なしでは成功は成し得ない状況であります。どうかご理解をいただきまして、万難を排してご協力をお願いを申し上げます。



新会員スピーチ

農林中央金庫福島支店長

船本 勝 会員

本日はこのような貴重な機会をいただき、ありがとうございます。縁あってこの地に参り、伝統ある福島ロータリークラブに入会させていただいてから、はや7か月となりました。仕事では県内くまなく、野に山に海に縦横無尽に駆けまわる日々を過ごしております、この広大な福島県の面積が実に全国第三位であるということに身に染みて実感しているところでございます。

なかなかこのロータリークラブの活動に参加できないままでおり、心苦しい限りでございますが、本日は改めて皆様にご挨拶をさせていただきついで、私についてご紹介させていただきたく思っております。宜しくお願い致します。

さて先ほど県内を縦横無尽に駆け回っている、と申しましたが、私の職業は、これでも金融関係ということになります。融資業務を十数年経験したのち、今この豊かな地福島で、わが行、農林中央金庫の理念の根幹となる「農林水産業を支える」という役目を担うべく奔走しております。

とはいうものの自分のバックグラウンドはこうした第一次産業とは全く無縁で、広島の実という町で生まれ育ちました。かつて軍港として数々の戦艦を送り出してきた呉は今でもその名残をとどめており、フェリーが行きかう港には、自衛艦や、潜水艦が何隻も当たり前前に停泊しているようなところです。

映画「仁義なき戦い」という任侠映画もここ呉が舞台でした。あの映画がきっかけで広島弁に怖いイメージを持たれてしまっているように思うのですが、実際は広島カープを応援する樽募金に象徴されるように、朴訥であたたかな県民性だにご紹介させていただきたいと思えます。

そのカープも昨年は25年ぶりにリーグ優勝することができ、故郷は大いに沸いたものですが、昭和50年の初優勝の折の私は10歳、野球よりもそろばんに夢中な小学生でした。小学生のうちに4段位まで取得し、広島県の代表として中国地区の大会に出たりもしました。今はもう全く指が動きませんが、当時は母親と買い物に行ってもレジの前に正確な金額が暗算で出せるのでずいぶん重宝がられたものです。

中学校までは故郷の呉市で過ごしましたが、高校は

片道1時間をかけて広島市内まで通いました。修道高校という質実剛健を旨とする男子校で、前身は浅野藩の藩校です。同窓生には政治家では亀井静香、芸術家では日本画の平山郁夫、芸人では、ドラマ「下町ロケット」で話題になった吉川晃司などがおり、彼とは同級生になります。

そんな高校時代は、質実剛健とはほど遠い、お金のかからない娯楽として、友人らと貧乏旅行を楽しんでいました。JRの青春18きっぷとユースホステルが定番で、工夫次第でどこへでも行ける旅行の楽しみに味をしめ、同時に、いろいろなところに行ってみいたいという放浪癖が身についてしまったかもしれません。

そんなこともあり大学は地元ではなく、少し離れた福岡、九州大学に進学しました。ユースホステルサークルに入り相変わらず貧乏旅行を楽しむかわら、テレビ局でのアルバイトにも精を出しました。報道局を支える仕事を中心でしたが福岡という土地柄、博多祇園山笠の中継や福岡国際マラソンなど、様々なイベントにかかわったことも良い思い出です。

そんな中1985年の夏、日航機墜落の日の報道局の緊迫感は今でも忘れられません。いつもと変わらない暑い夏の夕方、日航ジャンボ機が行方不明という第一報が飛び込んでから局内の空気は一変し、世を徹して情報収集にあたりました。ようやく事故現場が分かったのは翌朝のことでしたが、御巢鷹山という聞きなれない山の名前を確認したことを覚えています。

あれから30年後、私が群馬の地に赴任したのも何か縁があったようにも思います。このアルバイトでは、“社会人としてのマナー”、“コミュニケーションのやり方”、“お金をもらって仕事をする厳しさ”など、仕事をする上での基本、社会人の原点を学ばせてもらったと言っても過言ではありません。

4年間働いたテレビ局にそのまま就職という道もあったのですが、経済学部で金融政策を勉強していたこともあって企業の財務運営に強い関心があり、そちらの方向に進むことに決めておりました。ただ、一企業でそれを担当するよりは金融機関でなら「融資」という立場で様々な企業をみられるのではないかと考え、「融資」だけでなく「有価証券運用」の機能もあるユニークな金融機関、「農林中央金庫」に先輩の紹介もあって平成元年に入社しました。今年で実に入社28年目となります。

入社して最初の11年は「融資」一筋、新規開拓から、倒産処理、回収業務も一通り経験しました。融資の相手先は上場企業、中小企業から農業者・漁業者向けなど幅広くやりました。先ほどの半沢直樹が、まさにこの

頃の自分と重なります。実際はあのようなスキャンダラスなこととは無縁なのは言うまでもありませんが、同じバブル期に就職した時代背景から、空気感には似通ったものがあります。

このころに経験したこと、出会った方々は、若かった自分の精神性に強く影響を与えました。事業を営むことの難しさ、厳しさを実感するとともに金融機関に身を置くものとして、真摯に誠心誠意お客様に向き合わねばならない仕事であると強く肝に銘じ続けた11年でした。

その後担当業務は「融資」から「調達」サイドに変更となりました。この辺は他の金融機関にはないところで、農協、いわゆるJAの貯金推進や事業推進をプロモート・サポートする仕事になります。

当時全国には農協が3,000近くありましたが、合併を進め現在は650程度に集約されています。なお福島は130あった農協が現在5つになっており隔世の感があります。このJAサポート業務にも約10年従事し、その後は支店長として「経営」サイドに立ち8年ほどになります。

こうした業務を全国各地でやってまいりました。赴任した支店は新宿、福岡、金沢、富山、水戸、前橋そして今回の福島が7店目、本店勤務も含めると現在が12か所目、転居した回数は14回を数えます。今回初めての東北、しかも福島ということで休日には温泉を楽しんだり、地場産の美味しいものを食べたり、とりわけ逸品ぞろいの日本酒など堪能しながら福島の暮らしを満喫しているところですが、そんな中で大きくなりつつある心配の種が肥満であります。

今、私はこういう体型でお話ししておりますが、24時間働けますか、という風潮を背景に猛烈に仕事をしてきた長年の不摂生がたたって、4年前までは体重70キロ、ウエスト90センチという立派なメタボ体形を誇っており、脂肪肝の再検査を受けるのも毎年のことでした。

そんな中一念発起して「糖質ダイエット」に取り組み、半年で体重12キロ、ウエスト14センチの減量に成功し、これまで苦も無くこの体形を維持してきたのですが、ここ福島のうまいもの尽くしでやや先行きが不安になってまいりました。

糖質ダイエットといえば、その弊害を心配される向きもあることは承知しておりますが、私はそれほど厳格に食事制限をしたわけではなく、その代わりに「加圧トレーニング」を同時にやることで大幅減量を成功させました。これは軽い運動をする際に手や足を圧迫することで、より大きな運動の効果が得られるというものなのですが、このトレーニングで筋力を鍛えながら食事を工夫することで大きな効果を得ることができま

した。

また、このダイエットがきっかけで、減量のために食べてよいもの控えるべきものを瞬時に見分けることができるようになりました。ほぼ毎日予定が入っている宴席でも、目立たぬようささやかな自己防衛をしているところでもあります。ダイエットに興味のある方はぜひお声をおかけ下さい。

さて、話がややそれましたが、せっかくですのでここからは農林中央金庫のご紹介をさせていただきたいと思います。

皆様は農林中金にどのようなイメージをおもちでしょうか。政府系の金融機関と思われがちなのですが、特別法が設置されてはいるものの、全くの民間金融機関です。

ここ福島では、日銀の福島支店開設から遅れること約50年、昭和21年に、当時の日本興業銀行東北支店の一部を間借りして開設され、昨年10月に開設70周年の節目を迎えました。当初は仙台支店福島支所として戦後の混乱期に開設されたわけですが、その後、農林水産業の復興と発展の勢いに支所の規模では融資機能の間尺が合わなくなり、福島県議会で支店に昇格させるための議案が持ち上がるなどし、昭和57年に支店に昇格しております。

その後今から8年前の平成20年には、県の連合会である「県信連」と「農林中金」が統合し、その機能を継承し今に至っており、現在職員は105名となります。

この地の発展を支え、ともに歩んできた一つのエピソードとしてご紹介させていただきましたが、このように農林中金は、JAバンクという統一のブランドのもと、JAの事業をサポートするという役割で広く認知いただいておりますが、その役割を支える別の一面として、そうして集めた農協マネーを国際金融市場において運用する投資家としての役割も担っています。有価証券の運用残高は約60兆円で、おそらく国内金融機関ではナンバー1です。

こうしたなか、昨年6月からはこの2つの役割に加えて、もう一つ大きな柱を打ち出し、これを一つのビジネスの柱として育てるべく始めたのが「食農ビジネス」であります。これらの3つの役割、柱を総称して、三本の矢ではなく「三つの顔戦略」と言っております。

そうしたなか、昨今農業構造が変化し高齢者から意欲ある若者へと農業の主役が移りつつある中で、経営規模を拡大させる例が数多くみられるようになりました。そのようなビジネスチャンスをもれなくサポートし、「融資」を通じて発展を助ける役目を担うのが我々の使命の一つとなっております。

また「融資」という従来の形を超えて昨今は資本を提携するビジネスなども展開しています。さらに農業法

人が輸出をしたい、とかビジネスマッチングをしたい、などの様々なニーズに国内外のネットワークをフル活用しサポートをしています。

こうした多面的な支援は、政府のいう「農業の成長産業化」を具体的に実現させる有効な手だてであり、金融面から次世代の農業を実現させるリーディングバンクを目指して日々取り組んでいます。そうして日々県下を縦横無尽に駆け回っているわけであります。

なお一言付け加えさせていただきますと、我々は株式会社ではありませんので、利益はJA、組合員に還元する仕組みとなっておりますし、常に腐心しているのは農業者の利益の最大化、所得の向上の実現という点です。

ややもすると中間で搾取されがちな従来の第一次産業のビジネスモデルを脱し、いかに効率的で付加価値の高い農業を実現できるかという点に軸を置きつつ、農林中金がもともと融資先としてお付き合いのある食品、流通等の産業界のニーズと農林水産業の生産者をつなぐコーディネーターの役割を果たしていこう、というのが先ほど申し上げた「食農ビジネス」であります。

こうした全体戦略がある一方でここ福島では、そうした取組の大前提として、震災からの復興支援という、さらに大きなテーマにも様々な視点から取組を進めています。

一例を挙げると、避難解除がなされた地域、あるいは今後解除されていく地域に、どういう農業を取り戻すか、どうやって金融面から支援していくか、というようなことです。地元のJAや行政と連携して進めることとなりますが、街自体のコミュニティが戻っていない中で営農を再開する難しさは、皆様も容易に想像いただける通りです。

しかし何より深刻なのは、農業を担う農業者、特に若手の農業者がいないということです。苦心して農地を復旧させても、そこを耕す、未来へつなげる人材が、いないというのが、今最大の課題となっています。

この地では、農業が「なりわい」としての役目を担っていないという現状を見据え、今後の営農再開、復興のポイントは私なりに二つあると考えています。

一つは従来よりも付加価値の高い、複合型・労働集約型の農業を目指す、つまりより効率的な農業を目指すということ。その視点から、例えば飼料米など非食用の作物への転換も有効な手だてとなると考えています。

もう一つは担い手対策です。ここ福島は豊かな風土に恵まれ、農業者それぞれが独自の手法で営みが続けていくことができていました。それが先の震災を機に個人で事業を再開できなくても、仲間と一緒に再生できるということで、「協業化」の動きがみられるよ

うになり、その動きも次第に加速しております。

きっかけは思いもかけない不幸な出来事からではありますが、こうした協業化、集落営農化、あるいは法人化をすすめていくことが、ひいては農業経営のリスクを縮小させ、新たな農業の担い手の門戸を広げる大きなきっかけになると考えております。

こうした課題に加え、当県におけるもう一つの大きなテーマが国内外でいまだ尾を引く、風評被害の問題です。

これまでの数々の取組を経て、消費者が安全を理解してくれても、流通業者が買ったときに走っている現実がいまだ根強くあり、それがまた一般消費者の誤解を招くという構造が依然としてあります。

風評対策は地道なもので、一朝一夕に何かできるものではありませんが、辛抱強く、しかし毅然と、そうした問題に対峙していくことが重要と考えています。

震災から6年を経て、福島の復興は手つかずのところはまさにゼロ、もしかするとマイナスの状態のままであり、我々農林中金そしてJAグループはその現実をしっかりとみつめ、農業者が営農への意欲をなくすことがないように、寄り添い続けることが何より肝要だと思って日々取り組んでおります。

農業の話が続きましたが、試験操業から脱せないままの漁業、除染が進まない林業はさらに大きな課題を抱えたままになっています。

こうした復興支援に加え、昨年3月に合併した県内JAの金融事業については、スケールメリットが出てくる一方で、昨今のマイナス金利で金融機関経営は厳しい状況になっています。

私は昨年6月まで群馬にいましたが、同じ支店長職でも現在は前職の2倍、移動距離も業務も増えたことを実感しております。

ただ、行政をはじめマスコミ、そしてロータリークラブの皆様がそうであるように、福島県は農林水産業への県民全体の理解が極めて高い地域であると、常日頃感じております。農林中金やJAグループだけでは成しえないことも、本日ここにいらっしゃる商工会はじめ様々な団体、企業の皆様、そして故郷の発展を信じる県民の皆様一人ひとりの力を合わせれば、そのような課題もきっと乗り越えられる、困難を経験したからこそさらに良い福島にしていけると確信しています。

まだこの地に着任して8か月ですが、今後もこうした活動を通じ、微力ながら福島の農林水産業の発展、復興からの支援に貢献していきたいと思っております。引き続きご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げ、私からのスピーチとさせていただきます。

みなさま、ご清聴ありがとうございました。

「三者合同新世代会議」実施報告

1. 趣 旨

地域社会の向上と発展は、地域に住むすべての者が責任を共有しており、共に手を携えて推進すべきものである。合同新世代会議は、ロータリークラブが地域社会レベルで設ける会議であるところ、同会議において、30歳以下の新世代と地域の指導者とが対話し、新世代が意見等を発表し、地域の指導者から新世代に対して感想や対策などを述べることにより、両者が理解し合い、今後の更なる連携を強化するための機会とするとともに、ひいては、両者の協力による地域社会の向上と発展を目指すための一助とする。



2. 主 催 福島東稜高等学校インターアクトクラブ
 福島学院大学ローターアクトクラブ
 福島ロータリークラブ

3. 開催期日 平成29年2月18日(土) 13時30分～15時

4. 会 場 福島学院大学駅前キャンパス
 4階E405号室

5. 内 容

■会長挨拶(講話) 福島ロータリークラブ会長 古俣 猛

■意見発表

テーマ : 「人類に奉仕するロータリー」

サブテーマ: 「私の考える奉仕とインターアクト、ローターアクト」

IAC・RACより、それぞれ3名(1名3分～5分程度)ずつ発表。

■意見交換

参加者全員で意見交換をし、交流を図りました。

全体を4グループに分け、進行は、ロータリークラブ会員が務める。

意見交換後に、各グループから代表1名が意見交換の結果を報告。



6. 参加対象者

福島東稜高校 IAC 会員 (20名程度) 福島学院大学 RAC 会員 (10名程度) 福島 RC 会員 (10名程度)

7. 参 加 費 なし

「福島 RC 三者合同新世代会議 出席者名簿」

	福島東稜 IAC	福島学院大 RAC	福島 RC
A	阿部真依 齋藤桃子 佐藤圭佑	斉藤瑞姫 阿部美咲	菅野晴隆 青少年奉仕委員長
B	霜山玲奈 安斎 龍 吉田遥菜	佐藤郁美 久保木銀平	佐藤朋幸 会員
C	岩谷茉琳 安部紗綾菜 千葉彩音 山田亮太	藤田美樹 松本彩理佳	久保田吉朗 会員
D	佐藤由唯 菅野美紀 菊地真由 武田優姫乃	神田千皓 大久 空	安斎圭一 会員
	顧問 菅野史恵 先生 上野浩子 先生	顧問 佐藤祐貴 先生	古俣 猛 会長 菅野裕一 幹事 小原 敏 青少年奉仕副委員長 河田 亨 会員

新会員入会式



NOK(株)福島事業場 事業部長
やの たけおみ
矢野武臣 様
(紹介…日比野恒夫 会員)

生年月日／昭和33年1月15日

出身地／岡山県

住所／所在地は熊本県。福島県には単身赴任。

役職／NOK(株)常務執行役員オイルシール事業部長

略歴／1980年3月熊本大学工学部卒。

4月NOK(株)入社。

2016年4月オイルシール事業部長に就任。

表彰伝達



ポール・ハリス・
ソサエティの伝達
●**加藤義朋** 会員へ

幹事報告

例会変更のお知らせ

●福島西RC27日、福島北RC28日の例会はそれぞれ休会となります。

その他のお知らせ

- 3月ロータリーレートも変わらず1ドル116円となります。
- 3月25日(土)午後、辰巳屋にて「県北第一・第二分区合同新会員オリエンテーション」のご案内を該当者の方々に差し上げておりますが他にご希望の方はお申し出ください。

ニコニコBOX報告 (報告)黒崎浩一 委員

本日のニコニコBOX投入額 31件 **¥61,000** 累計 **¥1,556,000**

古俣 猛 会長

久し振りに本拠地での例会、改めて身の引き締まる思いです。本日入会される矢野武臣様の今後の活躍を期待申し上げます。

茂田士郎 会員

確定申告のために卸町のウイル福島へ行って来ました。パソコンで入力申請することに自信がなかったからです。ほぼ7割の申請者が高齢者で、申請会場に入るまでに長い行列をして約1時間半待たされました。パソコン入力は指導者の助けを借りて収入額、必要経費、寄付金額、医療費支出額などを入力し約1時間。合計で2時間半ほど費やしました。ほとんどの高齢者はこのパソコンの入力が不安で会場に来ていると思いますが、私は来年こそは自宅でパソコン入力をするぞと決心しました。

比川守義 会員

福島民報社高橋社長から“ふくしま産業賞”の賞状を戴きました。皆様に支えていただいているお陰と感謝しております。

丹治正博 会員

間もなく旧暦の初午が3月8日にやってまいります。初午は

私のひとこと

安藤 錬雄 会員



私は思う 九十一才になって
何がめでたいかということ。

長生きするって大変なんだ。

毎日何かを忘れることが多く、朝、出掛ける前に、娘から今日は忘れ物はないかと聞かれる。又、それを言う娘も大変だと思う。

そんな日常を毎回繰り返す。

外出したときは、他人に迷惑を掛けていないかと心配してくれていると思う。

長生きは孤独である。

でも、生ある限り生きるしかない。

例会プログラムのご案内

3月2日(木) 12:30 ~ 辰巳屋

ガバナー補佐 クラブ訪問スピーチ

善方邦雄 県北第一分区 ガバナー補佐
・誕生祝い ・「友」3月号紹介 河田 亨 会員

3月9日(木) 12:30 ~ 辰巳屋

ゲストスピーチ

渡辺経営コンサルタント事務所 代表 渡辺雅文様

3月16日(木) 12:30 ~ 辰巳屋

PETS 報告 森岡幸江 会長エレクト

米山奨学生報告

米山奨学生 ジューンさん「卒業にあたり」

3月23日(木) 18:30 ~ 辰巳屋

クラブ創立記念祝賀会 会費 3,000円

全国の稲荷神社の総本社である京都の伏見稲荷大社の鎮座記念日をお祝いする日です。当社の神様は伊勢神宮外宮の神様です。ご分霊の関係はありませんが、敬意を表して盛大にお祭りを行います。

幡 研一 会員

台北で音楽祭の打合せをしてきました。矢野武臣様の入会を歓迎致します。船本勝会員のスピーチに期待して。

船本 勝 会員

本日スピーチさせていただきます。宜しくお願い致します。

安齋圭一 会員

三者合同の新世代会議では、若い人たちから刺激を受けました。もっと盛り上げていきたいところです。

他クラブ会員より／靄丸直久／浦部 博／佐藤 徹／佐藤良智／三宅 喬／佐藤美奈子／岩山知弘／吉田大樹／林 隆壽／白岩康夫／高倉裕行／佐藤康太郎／八子英器／野原邦亮／児玉健夫／土屋敦雄／佐藤英典／加藤義朋／安藤健次郎／本保 晃／相良元章／勝見浩二／増子 勉／黒崎浩一